

水稲品種「にじのきらめき」は いもち病に強く、中山間地の有機栽培 ・疎植条件にも適応性がある。



農業試験研究センター三瀬分場では、
中山間地で有望な品種として、「にじのきらめき」（農研機構開発品種）を選定し、
現在、佐賀北部中山間地を中心に作付けが広がっています。
「にじのきらめき」は、中山間地の有機栽培で問題となるいもち病について、
葉いもち圃場抵抗性は“中”、穂いもち圃場抵抗性は“やや強”で、優れた特性を有しています。
そこで、「にじのきらめき」の中山間地での有機栽培への適応性を検討しました。

1. いもち病多発条件でも、「にじのきらめき」と疎植で被害軽減。

○ いもち病の多発条件試験（無防除・多肥・弱品種困い）

品種	栽植様式	1株あたり 穂いもち 発生率（%）	精玄米重 （kg/10a）
にじのきらめき	疎植（約37株/坪）	9	503
にじのきらめき	慣行密度植（約73株/坪）	34	412
コシヒカリ	慣行密度植（約73株/坪）	64	167



疎植（約37株/坪）
「にじのきらめき」



慣行密度（約73株/坪）
「コシヒカリ」



注1) 移植日はR6.5.28。栽植密度は、疎植：株間30cm×条間30cm（約37株/坪）、
慣行密度植：株間15cm×条間30cm（約73株/坪）で行った。
注2) 施肥（Nkg/10a）は、基肥－中間追肥－穂肥を6-4-2の多肥条件で行った。
また、いもち病は無防除で、密植条件で、弱品種を試験区周りに植え付けた。
注3) 化学肥料・除草剤は利用した条件で行った。

2. 有機栽培・疎植条件でも「にじのきらめき」は、 一般栽培「コシヒカリ」と収量同等で、玄米品質・食味は良好。

試験区	移植 時期	栽植密度	品種名	年度	精玄米重 （kg/10a）	収量比（%） 対）一般栽培 コシヒカリ	玄米品質 （検査等級）	玄米 たんぱく質 含有率 （%）	食味評価 総合 対）一般栽培 コシヒカリ
有機栽培 ・疎植 ・早植え	5/9-10	株間30cm ×条間30cm （約37株/坪）	にじの きらめき	R4	664	111	3.5	6.1	0.00
			にじの きらめき	R5	530	94	2.0	6.1	0.06
			コシ ヒカリ	R5	465	82	3.0	6.7	-0.19
一般栽培 （化学肥料 ・農薬利用）	5/12	株間15cm ×条間30cm （約73株/坪）	コシ	R4	596	（100）	7.0	6.0	-0.11
			ヒカリ	R5	566	（100）	3.0	6.4	-0.05

注1) 施肥条件 有機栽培・にじのきらめき：N5.0kg/10a 相当（菜種油かす135kg/10a）
有機栽培・コシヒカリ：N4.5kg/10a 相当（菜種油かす121.5kg/10a）。
佐賀県有機栽培マニュアルより、菜種油かすを窒素成分5.3%・肥効率70%として計算。
一般栽培・にじのきらめき：N8kg/10a（緩効性肥料）、一般栽培・コシヒカリ：N7kg/10a（緩効性肥料）
2) 精玄米重は、1.8mm篩による上玄米で、水分15.0%換算で示した。
3) 等級は民間検査員による検査等級。1(1等上)～9(3等下)、10(規格外)で示した。
4) 食味評価の基準サンプルは、同試験場内栽培の「コシヒカリ」を用いた。

※本研究は生研支援センター「戦略的スマート農業技術等の開発・改良」の
支援を受けて行いました。

佐賀県農業試験研究センター三瀬分場
山間農業研究担当
Tel:0952(56)2040 Fax:0952(56)2822
Mail:nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp